

かしわ

第76号

令和7年3月7日
ときわ会長岡東支部

Contents

- 巻頭言 … 1
- 絆を深める集い … 2-3
- 各教科部 … 3-5
- 令和6年度表彰者／年層別研修 … 6
- 東支部会員意識調査 … 7-8
- 教育研究発表会 … 9-10
- 委員会・東だるま会の活動報告／新入会員紹介 … 10
- 東だるま会／編集後記 … 12



新年度に向けて

副支部長 山崎 睦子

生徒指導提要の改訂に伴い、問題解決型生徒指導から発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導への転換がなされて2年が経ちます。この間、各校においては、安全・安心な居場所となる学級づくりや自己決定のある授業、集団活動により児童生徒の自己有用感を育む取組を行ってきました。

文部科学省が10月に公表した「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果によると、いじめや暴力行為等の認知件数が大幅に増加するとともに、不登校児童生徒が34.6万人に増えました。本県の小中学校における暴力行為の発生割合は、全国平均を大きく上回り、不登校児童生徒数も全国同様、増加傾向が続いています。今、私たち教員には、生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の

充実、ICTの活用の要請をはじめ、複雑かつ多様な課題への対応が求められています。

昨年の12月には、長岡市教育委員会から「年間授業時数等の適正配当について」の通知が発出されました。適正な時数等の配当により、教員が学ぶ時間を確保し、それぞれのキャリアステージに応じて求められる資質・能力の向上を図り、子どもたちによりよい教育を行うことがねらいの一つです。

新年度に向けて旧来の教育課程等を見直し、児童生徒が主体的に問題や課題を発見し、自己の目標達成のために自発的、自律的に決断し、実行する力を育てなければなりません。校長のリーダーシップのもと、それらを確実に実施するためには、令和7年度初めに、いかにして職員の意思統一を図るかが鍵となります。